JAPAN LIVE YELL project

TOTTORI LIVE YELL project

報告書

音楽×演劇で、鳥取を
もっと元気に。もっと笑顔に。

ライブへのエール。ライブからのエール。

文化庁
文化庁令和２年度戦略的芸術文化創造推進事業
「JAPAN LIVE YELL project」

TOTTORI LIVE YELL
project 実行委員会

ごあいさつ

TOTTORI LIVE YELL project実行委員会
委員長　**法　橋　　誠**

TOTTORI LIVE YELL projectが計画通りに開催できた喜びを関係者ともども分かち合いたいと思います。長期間にわたって健康管理に神経をすり減らしながらの準備は本当に大変でした。それだけに公演終了後の達成感は一入(ひとしお)で、みなさん心地よい（？）疲労感を味わわれたのではないでしょうか。普段であれば稽古や公演終了後に疲れを癒やす楽しい打ち上げ会もできずじまいです。企画演出・出演者、スタッフの皆さんのご苦労、ご尽力に深く敬意を表し、感謝申し上げます。また、出掛けにくい中にもかかわらず参加していただき、感染防止に協力していただいた多くの観客の皆さんにも大いに感謝申し上げます。

老若男女多様な人々が謳(うた)いあげた合唱「いのちの歌」に胸が熱くなったのは多くの命が危機に晒(さら)されている故かもしれません。社会の大転換の時代に軽やかに新しい価値を表出したモーツァルトのオペラ、敗戦に打ちのめされた庶民を奮い立たせたジャズの響きは、今私たちに必要なものを教えてくれたのではないでしょうか。そして、そこに新しい舞台芸術の萌芽を見出すのは私だけではないと思います。

プロジェクトが終了した後に県内でも急激に拡大する感染状況を複雑な思いで見つめていました。緊急事態宣言が出され不要不急の外出自粛が連呼され、メディアはコロナで埋め尽くされ、人々に希望を与え心を豊かにする、人々の営みはどこかに零(こぼ)れ落ちていってしまったかのようです。

このコロナウイルスって奴はなんて賢いんだ！というよりも、やっぱり自然には人智でとらえきれない奥深さがあるということを痛感させられます。自在に変化し防御の壁を易々と擦り抜け、人々を選別・分断し対策を無効化していくように見えます。老人・男性を集中的に攻撃し、老・男の政治社会を崩壊させようとしているようにも映ります。

たとえワクチンが成功しても、収束に２～３年、経済の回復には３年はかかる、と考えるのが妥当なのだとも言われます。とすれば、この間を必死に生き延び、私たちの社会に真に必要とされるものとは何なのかを追求するしかないのではないでしょうか。その中で文化創造活動を支援する制度を、故宇沢弘文先生が提唱された社会的共通資本として明確に位置づける議論もなされるべきものと思います。

なんとなれば、この地球という惑星がはるかな時間を費やして育んだ自然に対してもっと謙虚に向き合い、人類が紡ぎだした文化の結晶を自然に対し捧げる姿勢が求められているように感じるからです。

TOTTORI LIVE YELL Project

公演を終えて

主催者・出演団体による座談会

■法橋 誠氏

■菊池 ひみこ氏

「文化芸術」の喜びを共に

中島： 各会場の公演を振り返って、感じたことを教えてください。

原： 米子公演は、リトルフェニックスの定期演奏会を拡大する形でした。最後に老若男女86人がステージに乗り、生で演奏でき、有り難かったです。来場者アンケートに「感動した」「開催してくれてありがとう」というメッセージがありました。大きな演奏会は約1年ぶり。例年は定期演奏会までに20回以上本番がありますが、軒並みなくなり、一発勝負。子どもも緊張していました。

新倉： 倉吉公演では、オーケストラのメンバーは、50名以上が集まりました。鳥取県在住の3人の作曲家が、同時に新作を披露できたことは大きな成果です。井谷優太さんはコンピューターで音楽を作られますので演奏用の楽譜が無く、井谷さんの音をベースにオーケストラ用の楽譜に描き直しました。コンサートと演劇とのコラボレーションは正直ピンと来ていませんでした。でも演劇の内容は面白かったし、演じる感覚が歌手にも浸透してきて、最後は楽しんでやれていました。

菊池： 鳥取公演では、ジャズを演劇で分かりやすく表現してくれました。ミュージシャンから「贅沢で幸せな時間だった」「またぜひ呼んで」と言われました。地元からは、トランペットで学生2人が参加しました。プロに横で吹いてもらい、呼吸の一つでも感じられたと思います。五十嵐明要さんの音は、流行りの音とは違って「サックスって甘くて優しい音なんだ」と若い人が言っていました。

法橋： お客さんから「やっと見られる」という雰囲気を感じました。私も思わず目頭が熱くなりました。ミュージシャンと芝居のコラボレーションはそうないこと。短い期間で、よくあの構成ができたと思います。音楽と演劇がフュージョンするいいきっかけになりました。

中島： コロナという同じ苦難に立ち向かう、苦労の共有が喜びを高めたと思います。米子公演は、若い人から年配の方までが歌う当たり前の光景が、美しかったです。倉吉公演は、3人の作曲家の曲が聴けることに意味があります。オーケストラは人数が多く、しっかりとした音楽が聴こえました。オペラとの絡みで、面白さに出合いました。鳥取は、ミュージシャンが役者と一体感を持ってくれました。自由を求める＝表現するというジャズの根底を感じました。鳥取は人口が少なく、文化体験の機会が多くありません。学生がプロと共演したことは、インパクトが大きい。今後若者をどう育てるべきでしょうか。

■新倉 健氏

■原 礼子氏

■中島 諒人氏

出席者
法橋　　誠氏　TOTTORI LIVE YELL project実行委員会委員長
新倉　　健氏　鳥取大学名誉教授・作曲家
菊池ひみこ氏　ジャズピアニスト、鳥取JAZZ実行委員会委員長
原　　礼子氏　山陰少年少女合唱団リトルフェニックス指導者
・コーディネーター
中島　諒人氏　鳥の劇場代表理事

菊池：　場があること、催しができることが大事。人口が少ないからと、格差ができてはいけません。鳥取の人が、鳥取のジャズをつくる場を作らないと。でも地元だけでは枯れますので、時々外からの刺激、肥やしで育てることです。鳥取ジャズは、できることを少しずつ積み重ねています。ライブハウスはツウの人が来ると言われます。でもそれだけだと若い人は辛い。鳥取ジャズのように街中で目に触れることで励みになります。お客さんの熱を感じながら演奏することで、街の空気ができます。演奏の場がもっと多くできるといいなと思います。

新倉：　オーケストラはプロとアマチュアの混成でしたが、アマチュアとは思えないレベルの高さでした。4日連続で練習し、本来なら合間に食事や飲み会で交流を深め、成長のきっかけにもなりますが、今回は無理でした。でもヒントにはなったと思います。プロとアマチュア、どちらにも刺激となったと思います。このような公演をどんどんやりたいです。

原：　合唱は一人ではできません。友達同士で力を合わせて取り組むことで、視野が広がるのが合唱のいいところ。3人の子どもが、倉吉のオペラにも出ました。最初はなかなか殻が破れなくて。でもそのうち自分からやりたいという思いが芽生え、終いには動きすぎていたほど。プロとの共演はとても勉強になります。

法橋：　このような活動は誰かがやらないと。それをどのような仕組みでやるかというのも課題。コロナ禍で「不要不急」が一つのトレンドとなり、文化芸術もそう扱われがちです。でも公演を生で見て共有することは人生にとって、不可欠だと改めて感じました。このようなことが日常でできる社会づくりが大事。そうしないと、地方の中で若い人が魅力を感じて定着するのは難しいです。

中島：　グローバル化した世界で「私は何者なのか」を確認できるのは、文化だけだと思います。誰もが繋がっているけど、不安を抱えています。ジャズ、クラシック、合唱それぞれの分野に取り組むことで、人との共通点や違う点を確認できます。特に地方都市だからこそ、それによって世界が繋がることが大事です。異分野が混ざることで、今後新たな可能性が出てくると感じました。

JAPAN LIVE YELL project

新型コロナウイルスの感染拡大により、この春、世界から突然「ライブ」が消えました。
徐々に文化芸術活動は再開しているものの、未だ深刻な状況が続いています。

「JAPAN LIVE YELL project」（ジャパン・ライブエール・プロジェクト）は、文化庁、芸団協、そして全国27都道府県の文化芸術団体が連携し、私たちの暮らしにもう一度ライブを取り戻す後押しをする、緊急プロジェクトです。全国各地で、地域の特色を生かした個性豊かなイベントが延べ500本以上展開される予定です。リアルな会場での参加だけでなく、オンライン配信を活用して多くの方にご参加いただけるプログラムも企画されています。

新しい生活様式のもと、全国各地の芸術家やスタッフ、文化芸術に親しむ愛好家・子供たちは、かつてないチャレンジに取り組んでいます。知恵を出し工夫を重ね、舞台の幕を開け始めています。ライブを愛する皆さんと、もう一度感動と喜びを分かちあうために。あらゆる立場の人々に、ライブでエールを贈るために。

ぜひもう一度、ライブの醍醐味に触れてください。きっと新しい出会いが見つかるはずです。リアルやオンラインでの参加を通して、魂を揺さぶるステージを届けてくれる表現者やスタッフへ、みんなでエールを贈りましょう！

（出典　JAPAN LIVE YELL projectホームページより）

◇名　　称　ＪＡＰＡＮ　ＬＩＶＥ　ＹＥＬＬ　ｐｒｏｊｅｃｔ
ジャパン・ライブエール・プロジェクト

◇期　　間　2020年8月～ 2021年3月

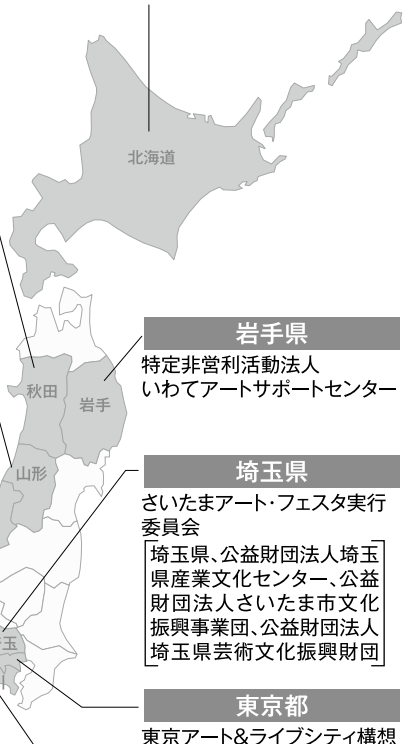
◇参加地域（計27都道府県）
北海道、岩手県、秋田県、山形県、埼玉県、東京都、神奈川県、新潟県、石川県、長野県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、広島県、愛媛県、高知県、福岡県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、沖縄県

◇主　　催　文化庁、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会、27都道府県の実施主体

◇協　　力　劇場、音楽堂等連絡協議会、公益社団法人全国公立文化施設協会、
公益社団法人日本オーケストラ連盟

※文化庁令和２年度戦略的芸術文化創造推進事業

全国公演主催者一覧



北海道
札幌演劇シーズン実行委員会

秋田県
「ジャパン・ライブエール・プロジェクト in あきた」実行委員会

山形県
山形県総合文化芸術館
指定管理者みんぐるやまがた

新潟県
株式会社 北前船

長野県
一般財団法人松本市芸術文化振興財団（まつもと市民芸術館）

石川県
公益財団法人石川県音楽文化振興事業団
オーケストラ・アンサンブル金沢

京都府
ロームシアター京都
（公益財団法人
京都市音楽芸術文化振興財団）
京都市

鳥取県
TOTTORI LIVE YELL
project実行委員会

島根県
公益財団法人
しまね文化振興財団

広島県
公益社団法人広島交響楽協会

愛媛県
株式会社
レスパスコーポレーション

福岡県
ジャパン・ライブエール・
プロジェクト
in ふくおか実行委員会

長崎県
認定特定非営利活動法人
長崎OMURA室内合奏団・
長崎県音楽連盟

熊本県
熊本城ホール開業記念事業
実行委員会
（公財）熊本市美術文化振興財団
（株）テレビ熊本
火のDance Splash実行委員会
DAF（株）

宮崎県
Japan Live Yell project
2020 in みやざき実行委員会

大分県
ライブ・フェスティバル
in OITA実行委員会

高知県
高知県立美術館・
公益財団法人高知県文化財団

岩手県
特定非営利活動法人
いわてアートサポートセンター

埼玉県
さいたまアート・フェスタ実行委員会
［埼玉県、公益財団法人埼玉県産業文化センター、公益財団法人さいたま市文化振興事業団、公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団］

東京都
東京アート&ライブシティ構想
実行委員会

神奈川県
横浜赤レンガ倉庫1号館
［公益財団法人
横浜市芸術文化振興財団］

特定非営利活動法人
国際舞台芸術交流センター

神奈川県民ホール
［公益財団法人
神奈川芸術文化財団］

愛知県
愛知県芸術劇場
（公益財団法人
愛知県文化振興事業団）

奈良県
ジャパン・ライブエール・プロジェクト奈良実行委員会・奈良県

和歌山県
WAKAYAMA
SOUNDSCAPE 2020
実行委員会

大阪府
一般社団法人フェスティバーロ
奥河内音絵巻アートキャラバン
実行委員会

兵庫県
有限会社 アゴラ企画
一般社団法人 江原河畔劇場

沖縄県
那覇市

TOTTORI LIVE YELL project

「音楽×演劇で、鳥取をもっと元気に、もっと笑顔に」

さまざまな舞台イベントが中止されて、ライブ活動ができなくなっている鳥取の表現者たちと、芸術活動に接する機会がほとんどなくなってしまった鳥取の人たちが再び交流できる場を作りたい。想いを共有する多くの方にご協力いただき実現したのが今回の「とっとりライブエールプロジェクト」である。

※文化庁と公益社団法人日本芸能実演家団体協議会が全国に声掛けし、鳥取県以外にも26の都道府県でそれぞれの催しが行われた。（総称は、ジャパン・ライブエール・プロジェクト。４・５ページ参照）

◇名　　称　ＴＯＴＴＯＲＩ　ＬＩＶＥ　ＹＥＬＬ　ｐｒｏｊｅｃｔ
とっとり ライブエール・プロジェクト

◇日　　程　2020年12月20日（日）　米子市公会堂
12月26日（土）　倉吉未来中心、とりぎん文化会館

◇主　　催　文化庁、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会、
ＴＯＴＴＯＲＩ　ＬＩＶＥ　ＹＥＬＬ　ｐｒｏｊｅｃｔ　実行委員会

◇実行委員会メンバー

役　名	所属・役職名	氏　名
委員長	特定非営利活動法人鳥の劇場　理事	法橋　　誠
副委員長	公益財団法人鳥取県文化振興財団　理事長	三田　清人
委員	作曲家・鳥取大学名誉教授	新倉　　健
	鳥取ＪＡＺＺ実行委員会　委員長	菊池ひみこ
	山陰少年少女合唱団リトルフェニックス　指導者	原　　礼子
	一般財団法人米子市文化財団　米子市公会堂館長	山下　文江
	日本海テレビジョン放送株式会社　取締役営業局長	奥平　正之
	株式会社新日本海新聞社地域プロデュース局局長	遠藤　一郎
	日本海ケーブルネットワーク株式会社 取締役執行役員総局次長　編成制作・技術担当	河﨑　　誠
	株式会社ＦＭ鳥取　代表取締役社長兼局長	中原　秀樹
	特定非営利活動法人鳥の劇場　理事	中島　諒人
	株式会社エムアンドエムドットコー　代表取締役	本山　博之
	鳥取県地域づくり推進部文化政策課文化振興監兼文化政策課長	堀田　晶子
監事	特定非営利活動法人鳥の劇場　副芸術監督	齊藤　頼陽
事務局長	特定非営利活動法人鳥の劇場　事務局長	中島　佳子
事務局	特定非営利活動法人鳥の劇場　制作	松本　智彦

◇実行委員会開催スケジュール

第１回実行委員会（設立総会）　2020年10月15日（木）14：00～
会場：仁風閣（国指定重要文化財　鳥取市東町）

第２回実行委員会　2020年11月17日（火）14：00～　会場：鳥の劇場（鳥取市鹿野町）

第３回実行委員会　2020年12月７日（月）14：00～　会場：鳥の劇場（鳥取市鹿野町）

第４回実行委員会　2021年３月　開催予定

公演内容・スケジュール

米子　合唱×演劇

山陰少年少女合唱団リトルフェニックス
鳥の劇場

●日時／12．20㊐　開演／14：00（開場13：00）
●会場／米子市公会堂

第1部　山陰少年少女合唱団リトルフェニックス
第15回定期演奏会

第2部　「岡野貞一物語 ふるさとのかなた」
～終わらない戦争、作曲家の祈り～

倉吉　クラシック×演劇

オーケストラ・オペラ
鳥の劇場

●日時／12．26㊏　開演／16：00（開場15：00）
●会場／倉吉未来中心 大ホール

第1部　「鳥取で生まれたクラシック」

●曲目／・新倉健「SONGOQAJ2020」
・上萬雅洋「大山／神仏の狂宴」
・井谷優太「Synth Concerto No.1-Ether-」

第2部　「モーツァルト、四大オペラと人生」
～歌と芝居、管弦楽で綴るオーケストラ・オペラライブ～

●モーツァルトの四大オペラ
・「フィガロの結婚」「ドン・ジョバンニ」「コジ・ファン・トゥッテ」「魔笛」

鳥取　Jazz×演劇

鳥取JAZZ
鳥の劇場

●日時／12．26㊏　開演／19：00（開場18：00）
●会場／とりぎん文化会館 梨花ホール

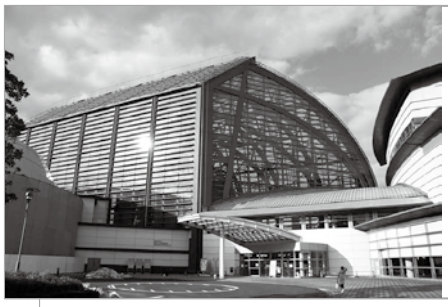
「スウィング・ジャパン」
～日系二世ジミー・アラキの生涯と日本ジャズ秘話をめぐって～

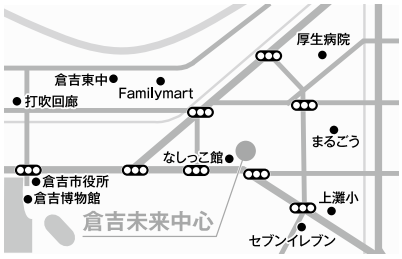
原作／秋尾沙戸子
「スウィング・ジャパン―日系米軍兵ジミー・アラキと占領の記憶 」（新潮社刊）

●特別ゲスト奏者　五十嵐明要

会　場

● 米子市公会堂　米子市角盤町2丁目61番地





● 倉吉未来中心　倉吉市駄経寺町212-5（倉吉パークスクエア内）

● とりぎん文化会館　鳥取市尚徳町101-5

TOTTORI LIVE YELL Project

鳥の劇場

BIRD Theatre Company TOTTORI

2006年設立。演出家中島諒人を中心に俳優や技術スタッフなど演劇人が、自分たちの力で鳥取市鹿野町の使われなくなった小学校や幼稚園の施設を劇場に変え、NPO法人として運営。演劇の力と常駐する専門家集団の力を核とし、現代演劇の作品の力と劇場という場の力を通じて、様々な社会的実践を重ね、全国、そして世界からも注目を集めている。「創る」「いっしょにやる」「試みる」「招く」「考える」「成長の支援」の6つのプログラムを事業の柱とし、コミュニティーの中に劇場と現代演劇があることの社会的な可能性をさまざまに模索している。

“トリジュク”鹿野学園での様子

“じゆう劇場”『銀河鉄道の夜』より

鳥の劇場外観　　2016年 旧鹿野小学校体育館部分を鳥取市・鳥取県が協働で改修

〈 鳥の劇場の出演者 〉

米子

おじいさん／
齊藤頼陽

小川先生／
大川潤子

子ども／
安田茉耶

子ども／
中垣直久

東京音楽学校教員／
高橋等

倉吉

モーツァルト研究会 部長／
中川玲奈

モーツァルト研究会 副部長／
中垣直久

オペラ研究会マネージャー／
安田茉耶

鳥取

ジャズクラブマスター／
大川潤子

ちぐさ／
後藤詩織

酔っ払い／
高橋等

2008年から毎年開催している国際演劇祭「鳥の演劇祭」

米子　合唱×演劇

日　時　2020年12月20日（日）
午後２時開演

場　所　米子市公会堂

出演団体　山陰少年少女合唱団リトルフェニックス
鳥の劇場

来場者数　405人

出演団体の紹介

団体名：山陰少年少女合唱団リトルフェニックス

プロフィール

音楽(合唱)を通じて、子ども達の夢を育み、情操を養い、また体力作りや相互扶助の精神を培うため、現合唱団の前身「山陰放送少年少女合唱団」が1959年設立された。2004年山陰放送より独立し、45年の伝統を受け継いだ「山陰少年少女合唱団　リトルフェニックス」が誕生した。昨年、創立60周年という節目を迎え、2020年は61年目の新たな挑戦の年であった。

米子市とその周辺をホームグラウンドとして、6 ～ 18歳までの子供たちが在籍し、週2回程度練習を重ねている。指導には原礼子先生とともにOGも加わり、特に、伝統である「歌いながら手話や踊りなどのパフォーマンス」をするスタイルを、現団員にしっかりと伝えている。演奏活動は、美術館やお寺、福祉施設など、各方面からの要請により年20回程度行う。国内では、仙台市、東京、福岡、徳島、広島など、海外ではパリ、江原道、リトアニア、ポーランド、スペイン、デンマーク、ブルガリアなどで演奏。近年では、海外の合唱団を鳥取県に招致するなど、国際交流にも積極的に活動している。

毎年1回開催される定期演奏会は毎回テーマを設け、趣向を凝らした演出により、好評を得ている。クラシックからポピュラー音楽までレパートリーは広く、近年は「童謡・唱歌のふるさととっとり」「まんが王国鳥取」の発展に寄与するべく、特に鳥取の作曲家作品やアニメ曲などを多く取り上げ紹介している。

その他の出演団体

- 大西瑞香＆とっとり邦楽合奏団
- コール・セゾン
- 合唱団　ぽぷら
- 合唱団きゃらぼく
- ドリーム・エコー
- 歌はともだち
- コール・凛（有志）
- 合唱団　こさじ（有志）
- 米子工業高等専門学校合唱部（有志）

公 演 概 要

合唱×演劇

第１部　第15回山陰少年少女合唱団
　　リトルフェニックス定期演奏会
第２部　岡野貞一物語　ふるさとのかなた

日　時　2020年12月20日（日）
　　午後２時開演
場　所　米子市公会堂
出演者　山陰少年少女合唱団リトルフェニックス
　　鳥の劇場

＜練習風景＞

演　　出　中島諒人　**脚本**　中島諒人、中島ここ
編　　曲　新倉健
舞台監督　大野英寿
音　　響　村上勉(サウンドカンパニー)・原伸弘(オハラ企画)
照　　明　生田正（鳥の劇場）
字幕操作　山陰少年少女合唱団リトルフェニックス保護者会
手　　話　鳥取県西部聴覚障がい者センター
音声ガイド　リーディングアクト
舞台スタッフ　石井一成(米子舞台)
音響スタッフ　中井香奈（サウンドカンパニー）・頭本大地(オハラ企画)
照明スタッフ　渡部竜己(オハラ企画)・伊中昌宏・岩城庸人（オハラ企画）
ライブ配信・記録映像　エムアンドエムドットコー
記録写真・取材　新日本海新聞社
舞台裏サポート　山陰少年少女合唱団リトルフェニックス保護者会
舞台制作　鳥の劇場
会場運営　エムアンドエムドットコー・日本海テレビジョン放送
　　一般財団法人米子市文化財団・山陰少年少女合唱団 リトルフェニックス保護者会
企画制作　鳥の劇場・山陰少年少女合唱団リトルフェニックス・エムアンドエムドットコー
協　　力　有限会社西川ピアノ調律所　**協賛**　わらべ館

当日の様子

公演の皮切りとなった米子会場の第１部では、山陰少年少女合唱団リトルフェニックスの子どもたちが、振り付けも交えてディズニーの名曲などの楽しいステージを繰り広げました。同合唱団のOBらも参加し、美しいハーモニーを披露しました。第２部は、鳥取市出身の作曲家、岡野貞一さんの生涯や功績を合唱と演劇で表現しました。岡野さんの作曲の特徴や功績を芝居で伝え、同合唱団が「春が来た」「故郷」などを合唱しました。フィナーレでは出演者全員がステージに立ち、「いのちの歌」「ビリーブ」を歌いました。

第1部

来場者用の検温済みバンド

３つの会場の出演者、スタッフ全員と、関係者に配布した缶バッチ

第2部

スタッフ証

オルガンは鳥取市にある童謡・唱歌とおもちゃのミュージアム
わらべ館からお借りしました。

出演者・スタッフ用の検温済みバンド

フィナーレ

当日の様子

■舞台裏の様子

■客席の様子

405人の聴衆が、合唱と演劇が融合した舞台を堪能しました。

■新型コロナウイルス感染拡大防止に関する対策の様子

来場者全員に検温をしました。

会場内の随所に消毒液を置いて、
手指消毒を呼び掛けました。

来場者に間隔を空けての着席を促すため、
座席に張り紙をしました。

来場記録が残るよう、来場者に緊急連絡先の
提供を呼び掛けました。

倉吉　クラシック×演劇

日　時　2020年12月26日（土）
午後４時開演

場　所　倉吉未来中心大ホール

出演団体　鳥たちのオーケストラ
鳥の劇場

来場者数　416人

作曲家・出演団体紹介

作曲家

新　倉　　健

1976年武蔵野音楽大学大学院作曲専攻修了。作曲を福島雄次郎、金光威和雄の各氏に師事。主な作品にオペラ「ポラーノの広場」、「madrigal」、「ゴング・エカサマ・ブダヤ」、「ケンタウル祭の夜」、朗読と室内楽のための音の絵本「よだかの星」「注文の多い料理店」など。また、NYタイムス紙で好評され米国各地で演奏された「広島が言わせる言葉」、ドイツで出版された「ギーターンジャリ」など、その作品は海外でも高い評価を得ている。鳥取大学名誉教授。

上　萬　雅　洋

作曲家、編曲家。様々な音楽シーンでの作編曲を手がけ、ヨーロッパでも活躍中。オーケストラ、室内楽、ミュージカル、和楽器、吹奏楽、合唱等の作、編曲作品多数。鳥取市交響楽団団長など。2013年10月に「交響曲第１番ニ短調」を、19年10月に「交響曲第２番ハ短調『霊峰大山【DAISEN】』」を発表し、好評を博している。作編曲は独学によるものだったが、2009年より鳥取大学大学院にて新倉健氏に師事。

井　谷　優　太

手足にフィジカル的な障がいがあっても音楽活動ができる方法を独自に確立し、シンセサイザーとサンプラーを自由自在に操り、音楽制作やライブ活動をしているマイノリティ・サウンドクリエイター。
2015年に東京国際フォーラムで開催された「第12回ゴールドコンサート」で最優秀賞を受賞したことをきっかけに本格的に活動を始め、17年には平昌パライベントへ招聘されるなど国内外問わず活動の幅を広げている。

鳥たちのオーケストラ

指揮者

大　浦　智　弘

東京学芸大学教育学部を卒業、同大学大学院を修了。新国立劇場、びわ湖ホールのほか各地のオペラ団体や管弦楽団、合唱団において副指揮者を務めた後、数々のオペラ公演や演奏会を指揮している。鳥取市にて新倉健作曲のオペラ≪窓≫初演の指揮、宮城県塩竈市にてオペラ≪ポラーノの広場≫東北初演を指揮。ひたち野外オペラ≪マクベス≫公演では約１万人もの観客のもと公演を成功に導いた。

コンサートミストレス

湯　淺　いづみ

鳥取市出身、在住。岡山県作陽高校音楽科に特待生として入学、卒業。愛知県立芸術大学音楽学部卒業。ベーテン音楽コンクール全国大会第1位受賞。鳥取県クラシックアーティストオーディション優秀賞受賞。現在、全国各地で幅広い演奏活動を行う他、鳥取県内にて後進の指導や地域の文化振興活動にも力を注いでいる。

演奏者

1stヴァイオリン：湯淺いづみ　芦原充　野口まつの　桑本ゆうき　中野了
福田俊一郎　足木かよ　長坂拓己　野口友江　赤迫智奈
2ndヴァイオリン：竹田詩織　仁熊美鈴　矢木紀子　高橋美穂
三宅音菜　福田菜々子　長原愛美
ヴィオラ：棚橋恭子　鈴村大樹　多井千洋
七澤達哉　島田玲　柘植藍子
チェロ：灘尾彩　一樂恒　時本野歩　中嶋寄惠　須々木竜紀
コントラバス：神庭智子　奥田敏康　中津浜麻美
ハープ：山地梨保
フルート：稲田真司　大野原愛
オーボエ：安田美和子　足立かおり
クラリネット：杉山清香　田中由紀
ファゴット：柿沼麻美　橋本美紀子
ホルン：穐山純果　渡部奈津子　穐山京子　小椋智恵子
トランペット：小林鴻　横山大輔
トロンボーン：清澄貴之　田中洋実
バストロンボーン：山田健一
チューバ：竹内亮平
ティンパニ・打楽器：武部良枝
打楽器：瀧禎子　上萬恵　上萬寧音
チェンバロ：綿口裕美子

オペラ歌手

佐々木　まゆみ

作品名
『ドン・ジョバンニ』
曲　目
「手に手をとって」
「ぶってよ、マゼット」
／ツェルリーナ
作品名
『コジ・ファントゥッテ』
曲　目
「どちらかというと黒髪が」
／フィオルディリージ

竹内　美咲

作品名
『フィガロの結婚』
曲　目
「ケルビーノアリア」
／ケルビーノ
作品名
『コジ・ファントゥッテ』
曲　目
「どちらかというと黒髪が」
／ドラベッラ

寺内　智子

作品名
『フィガロの結婚』
曲　目
「伯爵とスザンナによる二重唱」「手紙の二重唱」
／スザンナ
作品名
『魔笛』
曲　目
「パパパの二重唱」
／パパゲーナ

松田　千絵

作品名
『コジ・ファントゥッテ』
曲　目
「男たちに、兵士たち」
／デスピーナ
「復讐の炎は地獄のように我が心に燃え」／夜の女王

尾前　加寿子

作品名
『フィガロの結婚』
曲　目
「手紙の二重唱」
／伯爵夫人

作品名
『魔笛』
曲　目
「愛を感じる男の人達には」
／パミーナ

西岡　千秋

作品名
『フィガロの結婚』
曲　目
「伯爵とスザンナの二重唱」
／伯爵

作品名
『ドン・ジョバンニ』
曲　目
「手に手をとって」
「地獄堕ち」
／ドン・ジョバンニ

吉田　章一

作品名
『ドン・ジョバンニ』
曲　目
「地獄堕ち」／レポレッロ

作品名
『魔笛』
曲　目
「愛を感じる男の人達には」
「パパパの二重唱」
／パパゲーノ

小山　雅彦

作品名
『ドン・ジョバンニ』
曲　目
「地獄堕ち」／ 石像

山陰少年少女合唱団 リトルフェニックス

本池　佳乃　　白石　睦　　荒川　望咲

作品名　『魔笛』
曲　目　「パパパの二重唱」／ クナーベ

合唱団優喜

作品名　『ドン・ジョバンニ』
曲　目　「地獄堕ち」

公 演 概 要

クラシック×演劇

第１部「鳥取で生まれたクラシック」
　　『大山／神仏の狂宴』（改定初演）　作曲／上萬雅洋
　　『Synth　Concerto　No.1　-Ether-』（世界初演）　作曲／井谷優太
　　『SONGOQAJ（ソンゴカグ）2020」（改定初演）　作曲／新倉　健
第２部「モーツァルト、四大オペラと人生」

日　時　2020年12月26日（土）
　　午後４時開演
場　所　倉吉未来中心大ホール
出演者　鳥たちのオーケストラ
　　鳥の劇場

＜練習風景＞

演　　出　中島諒人（鳥の劇場）・齊藤頼陽（鳥の劇場）
脚　　本　高橋等（鳥の劇場）・武中淳彦（鳥の劇場）・後藤詩織（鳥の劇場）
楽譜制作　大浦智弘・前村知宏・松本智彦
ライブラリアン　大浦智弘・松本智彦
インスペクター　松本智彦
司会進行　西岡恵子・新倉健
舞台監督　三津久
音　　響　原伸弘（オハラ企画）
照　　明　生田正（鳥の劇場）
字幕操作　大浦亜紀・増川智子
手　　話　鳥取県西部聴覚障がい者センター
音声ガイド　リーディングアクト
舞台スタッフ　石井一成（米子舞台）・門脇功平（米子舞台）・坂本 暘海（米子舞台）
音響スタッフ　頭本大地（オハラ企画）
照明スタッフ　岩城庸人（オハラ企画）・大川畑雅美
ライブ配信・記録映像　エムアンドエムドットコー
記録写真・取材　新日本海新聞社
打楽器手配　上萬雅洋
舞台制作　鳥の劇場
会場運営　エムアンドエムドットコー・日本海テレビジョン放送・鳥取県文化振興財団・富士綜合警備保障
企画制作　鳥の劇場・新倉健・エムアンドエムドットコー

当日の様子

倉吉公演の第１部では、鳥取県在住の作曲家３人が手掛けた新曲を披露。プロジェクトに賛同した県出身や在住の演奏家らが中心となって結成した総勢54人の「鳥たちのオーケストラ」が演奏し、美しく迫力ある音が会場を包みました。第２部は、「フィガロの結婚」「ドン・ジョバンニ」などモーツァルトが作曲したオペラ楽曲を、鳥の劇場の役者や声楽家、同オーケストラが作品解説を交えた舞台を展開。オペラは鳥取で活躍する声楽家らが、表現豊かに伸びやかな歌声を響かせました。ユーモア溢れる芝居と歌、演奏の融合で、観客をモーツァルトの世界に誘いました。

第1部

第2部

当日の様子

■客席の様子

416人の聴衆が、クラシックと演劇が融合した舞台を堪能しました。

■新型コロナウイルス感染拡大防止に関する対策の様子

来場者全員に検温をしました。

検温を終えた来場者は、目印として
手首にバンドをしてもらいました。

スタッフ（左）は、マスクとフェイスシールドを着
用して、来場者の対応にあたりました。

来場記録が残るよう、来場者に緊急連絡先の
提供を呼び掛けました。

鳥取　ＪＡＺＺ×演劇

日　　時　2020年12月26日（土）
午後７時開演

場　　所　とりぎん文化会館梨花ホール

出演団体　Ｏｎｅ　Ｎｉｇｈｔ　Ｄｒｅａｍ　ＢＩＧ　ＢＡＮＤ
鳥の劇場

来場者数　502人

出演団体の紹介

One Night Dream BIG BAND

演奏者プロフィール

菊　池　ひみこ

仙台市出身。7歳よりクラシックピアノを始め、宮城学院女子大学音楽科・古賀蕭子、東京芸術大学教授・堀江孝子の両氏に、オルガンを東京芸術大学教授・島田麗子氏に師事。15歳より作曲を学び、16歳でヤマハ・エレクトーン・コンクールで優勝。1970年頃より日本のジャズの創世記に関わった数々のミュージシャンの薫陶を受け、藤井貞康氏に師事しジャズに傾倒していく。80年以降、オリジナルアルバムを次々と発表。「菊池ひみこバンド」で海外を含む各地で演奏活動を展開。CMや映画音楽など、作・編曲家としての仕事も多数。2011年秋より「鳥取JAZZ」を開催。19年には自己のグループで、世界三大ジャズフェスティバルの「デトロイト・ジャズフェスティバル」に出演。

松　本　正　嗣

鳥取市出身。青山学院大学理工学部卒。上條恒彦、吉田拓郎等のフォーク系のバンドでプロ活動を開始。1972年に「原信夫とシャープス＆フラッツ」に入団。「高橋達也と東京ユニオン」、「インナー・ギャラクシー・オーケストラ」などのビッグバンド、「大橋純子と美乃家セントラルステーション」などに参加。フリーのスタジオミュージシャンとしても活躍。ザ・ドリフターズのバラエティ番組「8時だヨ！全員集合」内で放送されたヒゲダンスの録音に参加。TV、CMなどの音楽も多数手掛ける。96年には、鳥取にライブハウス“After Hours”をオープン。99年、鳥取に居を移し「しゃんしゃん祭り」の踊り歌『しゃん しゃん しゃんぐりら』の補作・編曲を担当。現在は“After Hours”を拠点にリーダー・セッションを開催し、大人のための上質なジャズの生演奏を提供している。

特別ゲスト

五十嵐　明　要

1932年東京都中央区八丁堀生まれ。日本ジャズ界偉才のアルト・サックス・プレイヤー。「シャープス&フラッツ」「ブルーコーツ」「小原重徳とジョイフル・オーケストラ」と、一貫してビッグ・バンドのコンサートマスターを務めた。その人間味溢れる感性と、豊かな表現力に支えられた円熟のプレーに対して、数多いジャズ・サックス奏者の中で“ONE AND ONLY”と称されている。2018年、日本を代表するジャズ奏者として文部科学大臣から表彰される。音楽生活70周年を迎える五十嵐明要の活躍に対し、今、国内外を問わず大きな期待と注目が寄せられている。

ゲストプレイヤー

稲　垣　貴　庸

17歳よりドラムを猪俣猛氏に師事。18歳でプロデビュー。スタジオワークをする傍ら劇団四季オーケストラ、アーティストのサポートなどを経て、1984年から高橋達也と東京ユニオン在籍。その後93年より原信夫とシャープス&フラッツに加入。国内外のアーティスト、ジョー・ウィリアムス、ハリー・ベラフォンテ、ランディー・ブレッカー、リッチー・コール、サリナ・ジョーンズ、ペリー・コモなどと共演。マイク・プライスジャズオーケストラ、内堀勝ビッグバンド、野口久和ビッグバンドなどに参加し、自身のビッグバンド「稲垣貴庸 Big Band」や多くのミュージシャンとのコンボでも活躍している。ヤマハ及びジルジャンシンバルのエンドゥーサー。

奥　村　　晶

1967年生まれ。東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。北村源三氏に師事。88年第57回日本音楽コンクール入選。大学在学中に「宮間利之とニューハード」に入団、ジャズプレイヤーとしての活動を開始。以後、渡辺貞夫Big Band、猪俣猛Quintet、カルロス菅野&熱帯Jazz楽団、小曽根真No Name Horses、ほか数多くのグループに参加。またスタジオミュージシャンとして、J-Popアーティスト(サザンオールスターズ、Dreams Come Trueほか多数)のCD、TVドラマやCMのBGなどのレコーディングにも数多く携わる。2011年度より国立音楽大学ジャズ専修講師。

近　藤　和　彦

1964年、山梨県甲府市出身。中学校でサックスを始め、1986年、大学時代に山野ビッグバンドコンテストで最優秀ソリスト賞を受賞。在学中にプロ活動を開始。88年三原綱木とニューブリード、89年米米クラブ、90年宮間利之&ニューハードなどに所属後、渡辺貞夫BIG BAND、エリック・ミヤシロ(tp)EMバンド＆Blue Note Tokyo All Star Big Band、菊池ひみこバンドなどに参加。熱帯JAZZ楽団で19年間リードアルトを務めた。現在は自己のレギュラーカルテットや多数のレギュラーグループなどでライブハウス、コンサートに出演。スタジオミュージシャンとしてTV、CM、映画などのレコーディングに参加。アーティストのアレンジやツアーサポート、鍵田真由美・佐藤浩希フラメンコ舞踊団との共演など、幅広いジャンルで活動。サックスをフィル・ウッズ、ディック・オーツに師事。昭和音楽大学ジャズコース非常勤講師。

斎藤　クジラ誠

1954年東京生まれ。3歳でピアノを始め、10歳でギターに転向、その後成蹊大学在籍中からウッドベースを弾き始め、Pit-inn、アケタの店、タローなどのジャズ喫茶で活動を開始。その後、25歳頃からエレキベースを始め、ライブ活動以外でもスタジオミュージシャンとして活動。明田川荘之、松本英彦、中本マリ、阿川泰子、インナーギャラクシーオーケストラ、向井滋春、宮野弘紀などと共演。ジャズ以外では、サザンオールスターズ、山下達郎、竹内まりや、服部克久、久石譲、石井好子、加藤登紀子と共演。TVコマーシャルの音楽制作として、ネスカフェゴールドブレンド、シック、トヨタ、ニッサン、ホンダ、アフラック（アヒル）などに参加。現在は、前田憲男、大徳俊幸、清水秀子、井上信平、椎名豊、菊池ひみこなどとライブハウスやステージなどで活躍中。

辻　野　進　輔

東京音楽大学卒業。サックスを中村均氏、中村均一氏、近藤和彦氏に、ジャズアドリブ奏法をリック・オヴァトン氏に師事。現在、所属するジャズアンサンブルユニットSoalte Saxophone Quartetやコンボ、様々なバンドのサポートなど多方面で活動。

平　尾　孝　夫

鳥取県智頭町出身。大学在学中に森寿男&ブルーコーツオーケストラに入団。各種イベント、コンサート、ライヴハウス、テレビ、ラジオ、レコーディングなど、多岐にわたる活動を展開。その後フリーランスとなり、今陽子、雪村いづみなどのバンドや有馬靖彦とデキシージャイブ、パトリックヌジェなど数々のバンドでの演奏。現在は東京・横浜を中心に活動。

その他のメンバー

テナーサックス：中務教彦、秦野勲
バリトンサックス：金山晃久
トランペット：前野庸平、井上拓美、渡辺悠希菜
トロンボーン：五十嵐啓道、漆原良次、日野望絵瑠
ヴォーカル：伊藤誉子

鳥取　JAZZ

鳥取在住のミュージシャンや音楽愛好家が企画・運営して2011年より毎年開催されるJAZZイベント。プロのジャズミュージシャン、ジャズを題材に作品を作り続けているアーティスト、大学のJAZZ研究会や地元ミュージシャンが活発に活動していることを活かして、「ジャズ」と「アート」の２つの軸をコンセプトに開催。2019年からは世界３大ジャズ・フェスティバルであるデトロイト・ジャズフェスティバルとの交流も行っている。

公 演 概 要

ＪＡＺＺ×演劇

「スウィング・ジャパン」
～日系二世ジミー・アラキの生涯と日本ジャズ秘話をめぐって～
原作／秋尾沙戸子 スウィング・ジャパン－日系米軍兵ジミー・アラキと占領の記憶（新潮社刊）

日　時　2020年12月26日（土）
午後７時開演
場　所　とりぎん文化会館梨花ホール
出演者　One Night Dream BIG BAND
鳥の劇場

■ジミー・アラキ

鳥取県日南町にゆかりのある日系二世ジミー・アラキは、第二次世界大戦中は日本人強制収容所にて過ごす。後にアメリカ軍に入隊。1946年に進駐軍に加わり来日し、日本にジャズを伝えた。

＜練習風景＞

演　　出　中島諒人(鳥の劇場)　**脚本**　高橋等・武中淳彦
舞台監督　大野英寿
音　　響　大黒裕典(オハラ企画)　**照明**　久松夕香
舞台スタッフ　藤原次郎(アドセンターフジ)・河村徹(アドセンターフジ)
音響スタッフ　上田誠(オハラ企画)・大久保浩二(オハラ企画)
照明スタッフ　渡部竜己(オハラ企画)・伊中昌宏(オハラ企画)・松岡良明(オハラ企画)
ピアノ調律　有限会社西川ピアノ調律所
大道具製作　赤羽三郎
字幕製作・操作　鳥の劇場
手　　話　鳥取県西部聴覚障がい者センター
音声ガイド　リーディングアクト
ライブ配信・記録映像　エムアンドエムドットコー　**記録写真・取材**　新日本海新聞社
舞台制作　鳥の劇場
会場運営　エムアンドエムドットコー・鳥取県文化振興財団・新日本海新聞社・日本海ケーブルネットワーク・富士綜合警備保障
企画制作　鳥の劇場・フライングビーグルコーポレーション・エムアンドエムドットコー

当日の様子

鳥取公演では、日本の黎明（れいめい）期から現在のジャズまでを演劇と演奏で紹介。鳥取県在住のミュージシャンや音楽愛好家で作る「鳥取ＪＡＺＺ」と、東京都などで活躍するミュージシャンによる特別バンドが演奏を披露しました。ジャズの定番曲「ムーンライト・セレナーデ」や「シング・シング・シング」など約10曲を演奏。特別ゲストとして日本ジャズ界偉才のアルトサックス奏者・五十嵐明要さんが登場し、芝居の中でジャズの魅力を紹介し、語りかけるような甘く優しい音色で観客を魅了しました。来場者は一夜限りの豪華バンドが奏でる名曲の数々に聞き入り、盛んに拍手を送りました。

■舞台裏の様子

■客席の様子

502人の聴衆が、ＪＡＺＺと演劇が融合した舞台を堪能しました。

■新型コロナウイルス感染拡大防止に関する対策の様子

来場者全員に検温をしました。

検温を終えた来場者は、目印として
手首にバンドをしてもらいました。

とっとり新型コロナ対策安心登録システム
への登録を呼び掛けました。

来場者に配布するプログラムに除菌
シートを添えました。

鳥取フォトキャラバン

【展示企画】

大好きなトットリの「未来」を切り撮ろう！新発見！再発見！「鳥取フォトキャラバン」

【企画】

鳥取フォトキャラバン　代表　水本俊也（写真家）

【特別協力】

キヤノン株式会社

【概要】

小中高校生や地域住民が身近な自然を舞台にデジタル一眼レフカメラで写真を撮影し、トットリの魅力を伝えるプロジェクト「鳥取フォトキャラバン」の作品を、米子・倉吉・鳥取の３会場で展示。

日本の原風景に溢れるトットリの魅力を子どもたちは〝新発見〟、大人たちは〝再発見〟する世代と地域、文化と歴史をつなぐ「地域交流型」の取り組み。

米子会場の様子

倉吉会場の様子

鳥取会場の様子

来場者アンケート

■米子公演（2020年12月20日）

・どの歌も全て素晴らしい歌声に聞き入り引き込まれてしまいました。感動で胸がいっぱい、明日からも頑張れそうです。（70代女性）

・鳥の劇場と子どもたちのコラボ、市内合唱グループ、琴の大西さん、見ごたえのある時間を過ごせました。ありがとうございました。（70代女性）

・家の中でテレビを見てばかりですが、娘が行こう！行こう！と誘ってくれ出掛けました。子供さん方の清々しい声、手ぶり足ぶり、出掛けてきて本当に良かったです。気持ちも晴れ晴れとしました。（80歳以上女性）

・合唱だけでなく演技なども入れながらしていたので、より歌や作曲者について知れ、親しむことができたと思う。（10代男性）

・除菌シートを配るとかチケットの半券に名前・座席No.を記入など、これまでにない配慮ですばらしいと思いました。外出を控えている人でも、これには来ようと思われた人もいるのではと感じました。第二部すばらしかったです。（60代女性）

・歌が上手で私もやりたくなりました。あと服装もぴしっとしてかっこよかったです。（10歳未満女性）

・多様な構成となっていて、すそ野の拡大につながると思う。（40代男性）

・リトルフェニックスの演奏を生で体感できとても嬉しいです。他県にいる娘はライブ配信で感激していることでしょう。演劇とのコラボは内容もすばらしかった。日本の音楽の歴史の一端と岡野氏のことを知ることができとても感動！（60代女性）

■倉吉公演（2020年12月26日）

・普段このような公演に来ないので、刺激をうけました。出演者も観客もみんなが元気になれて、勇気をもらえる公演だったと思います。（10代女性）

・１部の曲が3人の作曲家の特徴が出ていて、それぞれ楽しめました。とにかく楽しかった。（60代男性）

・鳥取ならではのコンサートという主旨がすばらしい。鳥取にこんな素敵な曲をつくる方がいると思うと誇りでもある。（60代女性）

・こんな素晴らしい企画が出来たことに感心しました。鳥の劇場の皆さんの演技はさすが、声楽の皆さんもレベルが高い。（60代男性）

・LIVEの素晴らしさを改めて感じました。人生にはやはりLIVEがなくてはならないと思う。人生を豊かにしてくれます。（30代女性）

・コロナで様々なことを我慢してきた今年の締めくくりに、最高のプレゼントを頂いた。（50代男性）

・出演者はこの企画があるからこそ、音楽活動に取り組めたと思います。出演者も観客も、この企画には感謝しかないと思う。（40代女性）

・11歳の子どもを連れてきました。初めて聴く曲なのに、こんなに面白いのかと感じました。歌の歌詞・説明がとても分かりやすく聴きやすかったです。（30代女性）

・２部で大満足。大変なコラボでした。生の音楽と声にからだが生き返りました。結末もおもしろかった！（60代男性）

・２部に字幕があって歌詞もよくわかった。鳥の劇場の演技が歌やオーケストラをさらによくした。（40代女性）
・今だからこそ、芸術の力がとても大切なのだと改めて思いました。（10代未満男性）
・オーケストラとオペラと演劇を一度に楽しめて、とてもいい時間でした。それぞれ皆さんの才能が輝いていました！（20代女性）

■鳥取公演（2020年12月26日）

・ジャズをこんな近くで聴くことは今回が初めてでした。迫力満点のパフォーマンスで、終始魅了されてました。ジャズの魅力に気づけて幸せです!!久しぶりに劇場でパフォーマンスを見れて、とても心が明るくなりました。素敵な2020年の締めくくりができそうです。（20代女性）
・一流のジャズ演奏が無料で聴けるとは、鳥取は素晴らしいと思います。俳優さんの役割も効果的だと思いました。（30代男性）
・コロナ禍でふさいでいた気持ちが、ひととき開放された思いです。スタッフ、実行委員の皆様の努力に敬服いたします。演劇とのコラボによる進行も良いアイデアでした。（60代男性）
・ジミーさんの酔っ払いの登場の仕方がよかった。ロビーのフォトキャラバンの写真の展示もステキでした。（60代女性）
・コロナ禍で、なんとなくうまく生活できていると思っていたけど、幕が開いていかに自分が乾いていたのかわかった。カラカラに乾いたスポンジにどんどん新鮮な水が浸み込んでいくようだった。（40代女性）
・新聞のチラシを見て、なんとなく来てみましたが、思っていた以上に素晴らしい内容でびっくりしました。ジャズを座って聞いているのが、もったいなく、一緒に踊りたくなりました。（30代女性）
・ライブビューイングでオペラを見て、その後にJAZZ公演を拝聴し、とても贅沢な時間を過ごせました。演劇でJAZZの説明があり、種類や歴史等がわかったのが良かったです。（50代女性）
・やっぱり芸術のない人生はつまらないです。LIVEは生きる力になります。（40代女性）

YouTubeでライブ配信

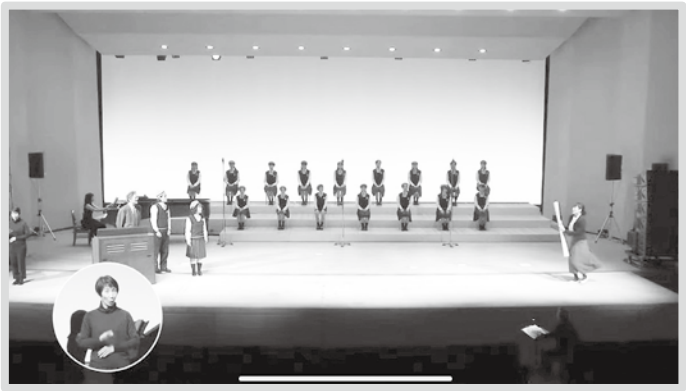
各公演の様子をYouTubeでライブ配信しました。多くの方にご覧いただけるよう手話通訳や字幕をつけたり、公演終了後も記録映像（鳥取公演を除く）をYouTubeにて公開するなど工夫を凝らしました。

視聴回数

（2020年2月3日現在）

米子

2,179回



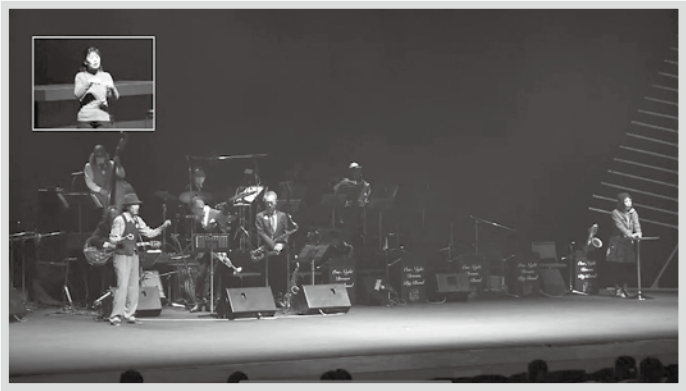
倉吉

2,143回

鳥取

616回

記録映像配信なし



広報展開

【実行委員会の設立　記事】

日本海新聞　2020年（令和2年）10月16日　金曜日　1版（東部版）　021ページ

芸術体験の場 再び

トットリ・ライブエール・プロジェクト実行委設立

12月、3会場で合唱や演劇催し

新型コロナウイルスの影響で芸術体験の場が失われる中、鳥取の優れた芸術を集めて多くの県民に届ける「TOTTORI LIVE YELL project（トットリ・ライブエール・プロジェクト）」の実行委員会が15日、鳥取市内で設立された。12月に鳥取、倉吉、米子の3会場でクラシックやジャズ、合唱と演劇がコラボしたイベントを開催する。

文化芸術体験の機会を全国規模で取り戻し、人々の表現活動や鑑賞を後押しするために文化庁、日本芸能実演家団体協議会と全国27都道府県の文化芸術団体が連携したプロジェクトの鳥取県版。鳥取市鹿野町の鳥の劇場が中心となり、実行委員会を立ち上げた。

同日、鳥取市東町2丁目の仁風閣で開かれた設立総会には県内の文化芸術団体や報道機関の代表、学識者らが出席。実行委員長に鳥の劇場理事の法橋誠さん（66）が就任した。

法橋委員長は「コロナで多くの芸術体験が失われたが、やはり〝生〟の臨場感はいいもの。たくさんの県民が芸術体験の機会を得られたら」と話した。

イベントの内容について確認する実行委員会のメンバーら＝15日、鳥取市東町2丁目の仁風閣

県内3会場で開かれる催しの日時、内容、会場は、12月20日＝山陰少年少女合唱団を中心としたコンサート（米子市公会堂）▽同26日＝鳥取県の作曲家による作品の演奏会（倉吉未来中心）▽同26日＝ジャズピアニスト菊池ひみこさんを中心としたコンサート（とりぎん文化会館）。いずれも鳥の劇場とコラボする。

（高坂綾奈）

©新日本海新聞社 無断複製・転載を禁じます。

【初の公開練習公開 記事】

日本海新聞　2020年（令和2年）11月23日　月曜日　1版（東部版）　021ページ

本番に備えて
初の公開練習

「音楽と演劇融合」プロジェクト

新型コロナウイルスの影響で体験の機会が失われる文化芸術活動への支援の一環で、「TOTTORI LIVE YELL Project（トットリ・ライブエール・プロジェクト）」として12月に鳥取県内3会場で音楽と演劇が融合した演目が披露されるのを前に22日、米子市内で公開練習が行われた。米子会場で出演する山陰少女少女合唱団リトルフェニックスと鳥の劇場が、当日の流れを確認し本番に備えた。

同合唱団と鳥の劇場は12月20日に市公会堂で、鳥取市出身の作曲家、岡野貞一監督の演出指導の下、「春が来た」や賛美歌などの歌をテーマにした歌や劇を披露する。初の合同練習では、メンバーと役者たちが芸術い始めのタイミングや劇の流れ、舞台での動きを確認した。

歌い出しや演技の流れなどを確認するリトルフェニックスのメンバーや鳥の劇場の役者たち＝22日、米子市公会堂

演出でセリフを発することになった同合唱団の山本絆さん（9）＝車尾小3年＝は「心配だけど頑張る。みんなで協力して歌を披露して、岡野さんのことを多くの人に知ってもらいたい」と話した。

同プロジェクトでは他に、12月26日に倉吉未来中心ととりぎん文化会館で異なる演目が披露される。（井川朋子）

©新日本海新聞社 無断複製・転載を禁じます。

【コロナ対策 記事】

日本海新聞　2020年（令和2年）12月8日　火曜日　1版（東部版）　021ページ

県内3会場で文化芸術公演

ライブエール実行委 コロナ対策を決める

鳥取県内3会場で今月下旬に行われる文化芸術活動の支援企画「TOTTORI LIVE YELL Project（トットリ・ライブエール・プロジェクト）」の実行委員会が7日、鳥取市鹿野町の鳥の劇場で開かれ、来場者数を客席の半数以下に制限するなど新型コロナウイルス対策を決めた。

コロナ禍で芸術体験の場が失われる中、優れた芸術を県民に届けようと文化庁、実行委などが主催。クラシックやジャズ、合唱と演劇がコラボする異なる公演を20日に米子市公会堂、26日に倉吉未来中心、とりぎん文化会館で開く。

実行委は来場者数の制限のほか、出演者とスタッフは本番前後の4週間の検温記録を取ることなどを決定。前日までに開催エリアに県版「コロナ特別警報」が発令された場合、原則ライブ配信のみとすることも確認した。

（松本妙子）

©新日本海新聞社 無断複製・転載を禁じます。

【寄稿文①　中島 諒人氏】

日本海新聞　2020年（令和2年）12月3日　木曜日　1版（東部版）　009ページ

みんなで困難を乗り越えよう

音楽と演劇のライブ

20日・米子　／　26日・倉吉、鳥取

○●○　上　●○●

いよいよ12月。年の瀬は、人のにぎわいの中に出かける楽しさもあります。が、今年はちょっと複雑…。でもというか、だからというか、音楽と演劇のライブをやります。米子、倉吉、鳥取の3会場でやる、「ここだけ」の企画です。感染症対策バッチリで生配信も。文化庁が中心になって、「ライブへのエール。ライブからのエール。」をテーマに、全国27都道府県の各地で、ライブの場を作る企画の一環です。

コロナ感染拡大で音楽も演劇も深刻な影響を受けていることは、みなさんご存じのことと思います。実演家のみでなく、技術の人とかホールの人とかかなり広い範囲を含みます。たいへんなのは対面型ビジネス全般で、舞台関係だけが特別ではないのですが、大事なことはみんなで互いに力を合わせて困難を乗り越えなければいけないこと。つまり応援していただきたい。これが「ライブへのエール。」です。

では「ライブからのエール。」とは？　音楽は心の栄養です。家にじっと閉じこもっていると、身体的には健康なはずでもやっぱり何かおかしくなってくる。精神の刺激、栄養が必要です。米子では作曲家の岡野貞一、倉吉ではモーツァルト、鳥取では日本のジャズの草分けジミー・アラキ（お父さんが日南町出身）を取り上げ、演劇を縦糸にして楽しい「生」の時間を作ります。鳥取の素晴らしい音楽家たちを中心に、音楽の豊かな歴史や蓄積を味わってください。

コロナ禍をきっかけに、鳥取をライブが盛んな場所にしようじゃありませんか。入場無料ですが、コロナ対策のため要予約です。

（中島諒人・TOTTORI LIVE YELL Project実行委員・鳥の劇場代表理事）（木曜日に掲載）

米子公演に出演する「少年少女合唱団リトルフェニックス」

◇「TOTTORI LIVE YELL Project」は12月20日午後2時・米子市公会堂▽同26日午後4時・倉吉未来中心▽同午後7時・とりぎん文化会館。予約は公式ウェブサイト（https://tottori-liveyell.jp/）で。問い合わせは電話0857（84）3268、実行委員会事務局まで。

©新日本海新聞社 無断複製・転載を禁じます。

【寄稿文②　新倉 健氏】

日本海新聞　2020年（令和2年）12月10日　木曜日　1版（東部版）　009ページ

倉吉会場「クラシック×演劇」

3作曲家の〝芸術音楽〟など

コロナ禍の師走に「心のすす払い」を

○●○　中　●○●

「音楽×演劇で、鳥取をもっと元気に。もっと笑顔に。」をモットーに開催される「鳥取ライブエール」。今回は倉吉未来中心大ホールで開催される「クラシック×演劇」の内容をご紹介します。

第1部の「鳥取で生まれたクラシック」では、鳥取在住の3人の作曲家による作品―いった、鳥取で活躍する優れた声楽家たちが、鳥取在住・出身者を中心としたプロ・アマ混成のスペシャルオーケストラと共演します。指揮はオペラの指揮と指導に定評のある大浦智弘です。

新倉健「ソンゴカグ2020」、上萬雅洋「大山／神仏の狂宴」、井谷優太「Synth Concert No.1―Ether―」をお届けします。世代も個性も異なる三者三様のオーケストラの響きをお楽しみください。余談ですが、これらは全て出来たてのホヤホヤの作品ですからクラシックという用語は、この場合は「古典音楽」ではなく「芸術音楽」という意味で使用しています。

第2部「モーツァルト、四大オペラと人生」～歌と芝居、管弦楽で綴るオーケストラ・オペラライブ～では、ソプラノの尾前加寿子、寺内智子、松田千絵、佐々木まゆみ、竹内美咲、バリトンの西岡千秋、吉田章一、バスの小山雅彦と天才モーツァルトの音楽をテーマとした軽妙でユーモア溢れるお芝居を楽しみながら、モーツァルト四大オペラの美味しいところをつまみ食いしようという趣向です。たまらなく贅沢なつまみ食いになると思います。この楽しい公演が、コロナ禍の師走に、みなさまの「心のすす払い」になることを願っています。

（新倉健・TOTTORI LIVE YELL Project実行委員、作曲家、鳥取大学名誉教授）

（木曜日に掲載）

鳥取で上演された「魔笛」の一場面

◇「TOTTORI LIVE YELL Project」は12月20日午後２時・米子市公会堂▽26日午後４時・倉吉未来中心▽同午後７時・とりぎん文化会館。予約は公式ウェブサイト（https://tottori-liveyell.jp/）で。問い合わせは電話0857（84）3268、実行委員会事務局まで。

©新日本海新聞社　無断複製・転載を禁じます。

【寄稿文③　菊池 ひみこ氏】

日本海新聞　2020年（令和2年）12月17日　木曜日　1版（東部版）　009ページ

鳥取会場「ジャズ×演劇」

日本の黎明期から現在まで

日南に縁、ジミー・アラキさんの生涯も

○●○　下　●○●

このたびの「TOTTORI LIVE YELL project」では、鳥の劇場さんと一緒に演劇とジャズで舞台を創るということで、とてもワクワクしています。公演では、日本のジャズ黎明期に大きな役割を果たした、日南町に縁のあるジミー・アラキさんの生涯を紹介するとともに、「日本に最初に入って来たジャズ」から、「現在のジャズ」までをご紹介したいと思います。

私がジャズを始めて間もない頃に演奏していたクラブに、ドラムの清水潤さんがよく出演しておられました。ある日、彼がわざわざ重たいカセットデッキを持って来て、ある音源を聞かせてくれました。

「これ、誰だと思う？」と聞かれ、どう聴いても日本人には思えなかったのですが、「これ、俺だよ」と言うのでびっくりして暫し固まってその音を聴いていました。そして、「これ、貞夫な？これ、秋吉な？これは、守安祥太郎と言ってだな…」と当時のことを事細かに教えてくれ、そのカセットテープを「やるよ」と言ってプレゼントしてくれたのです。

それが、「幻のモカンボセッション」というアルバムになって世に出るのはそれから大分経ってからのことでした。そのカセットから聴こえてきた超高速BEBOPと衝撃は私の心の底でずっと唸り続けています。

公演では、その「幻のモカンボセッション」に参加されていて、実際にジミー・アラキさんとも接点のあった、サックスの五十嵐明要さんをゲストにお迎えしてジャズ名曲の数々をおおくりします。どうぞさまざまなスタイルのジャズをお楽しみください。

（菊池ひみこ・ジャズピアニスト、鳥取JAZZ実行委員長）

演奏するジャズミュージシャンたち

◇「TOTTORI LIVE YELL Project」は12月20日午後２時・米子市公会堂▽26日午後４時・倉吉未来中心▽同午後７時・とりぎん文化会館。予約は公式ウェブサイト（https://tottori-liveyell.jp/）で。問い合わせは電話0857（84）3268、実行委員会事務局まで。

©新日本海新聞社　無断複製・転載を禁じます。

【予告「音楽と演劇　融合舞台」】

日本海新聞　2020年（令和2年）12月17日　木曜日　1版（東部版）　009ページ

芸術家の思い、元気届け

音楽と演劇 融合舞台

県内3会場で 20、26日開催「ライブエール」

ネット配信も

コロナ禍の今年締めに

鳥取県内の優れた芸術を集め、音楽と演劇を融合させた舞台「TOTTORI LIVE YELL Project（トットリ・ライブエール・プロジェクト）」が20、26両日、鳥取県内3会場で披露される。新型コロナウイルスの影響で芸術体験や発表の機会が失われる中、今年の締めくくりに多くの県民に元気を届けようと、出演者らが稽古を重ねている。（松本妙子）

文化庁、日本芸能実演家団体協議会と全国27都道府県の文化芸術団体が連携したプロジェクトの鳥取県版のイベント。「ライブへのエール。ライブからのエール」をテーマに掲げる。

「今年は多くの芸術家が『自分は社会的意味があるのか』と自問自答したことだろう。コロナ禍により年間20公演をこなす同合唱団も、今年の公演機会は2回のみ。「貴重な発表の場に向けて体調を万全に」と、保護者らは、歌いやすく飛沫が飛ばないよう口回りを厚手にしたマスクを手作りして練習をサポートする。小学2年～高校2年の団員18人がステージに立つ予定だ。原礼子代表(71)は「披露できることがありがたい。子どもたちも張り切っている。元気を届けたい」と本番を心待ちにする。

合唱と演劇を織り交ぜた演目「岡野貞一物語」の稽古に励む出演者ら＝11日、米子市文化ホール

26日には倉吉未来中心で、オーケストラ・オペラと劇による「モーツァルト、四大オペラと人生」を公演。同日、とりぎん文化会館（鳥取市）では鳥取ジャズと共に、県ゆかりの日系2世アメリカ人で、ジャズ演奏家のジェイムス・T・アラキの生涯を演じる。

◇　◇　◇

やっぱり人は精神的な喜びやいた情熱、芸術を爆発させた刺激、栄養がないと生きられない。芸術の大切さを強く感じた一年だった」と意義を語る。

皮切りとなるのは20日の米子市公会堂での公演。山陰少年少女合唱団リトルフェニックスと共演し、鳥取市出身の作曲家、岡野貞一の生涯を表現する。

観覧無料。要予約。当日、各会場では座席の削減や検温などの感染対策を徹底する。自宅でも無料観覧できるようユーチューブで配信する予定。ライブビューイングなどの情報は特設サイトで随時案内している。問い合わせは電話0857(84)3268、野町）の中島諒人代表理事。全会場で劇団員が出演する本番に向けて「表現者がためて」事務局・鳥の劇場。

©新日本海新聞社　無断複製・転載を禁じます。

【当日の様子　米子公演】

日本海新聞　2020年（令和2年）12月21日　月曜日　1版（東部版）　021ページ

合唱と演劇 見事融合

米子会場皮切り 聴衆400人を魅了

岡野貞一の生涯などに関する物語を熱演する出演者＝20日、米子市公会堂

鳥取県内の優れた芸術を集め、音楽と演劇を融合させた舞台「TOTTORI LIVE YELL Project（トットリ・ライブエール・プロジェクト）」（実行委員会など主催）が20日、米子市公会堂で始まった。会場に詰め掛けた約400人の聴衆は合唱と演劇がコラボした舞台を存分に楽しんだ。（岡野耕次）

トットリ・ライブエール

文化庁と日本芸能実演家団体協議会が全国27都道府県の文化芸術団体と連携したプロジェクトの鳥取県版のイベント。米子、倉吉、鳥取の3会場で、合唱、クラシック、ジャズと演劇が共演する。

皮切りとなる米子会場では、山陰少年少女合唱団リトルフェニックスと鳥の劇場が出演。第1部では、同合唱団がディズニーの名曲などを息の合ったハーモニーで歌い上げ、来場者を魅了した。

第2部は、鳥取市出身の作曲家、岡野貞一の生涯や功績を合唱と演劇で表現。物語を通じて岡野の作曲の特徴などをひもとき、同合唱団が「春が来た」「もみじ」「故郷」などを合唱した。最後は出演者全員で「いのちの歌」などを歌ってフィナーレを迎えると、会場からは惜しみない拍手が送られた。

会場では、座席の削減や検温など新型コロナ感染対策を実施。また、公演の様子は動画投稿サイト「ユーチューブ」でもライブ配信した。26日には倉吉未来中心（倉吉市）と、とりぎん文化会館（鳥取市）で開かれる。

©新日本海新聞社　無断複製・転載を禁じます。

【当日の様子　倉吉公演】

日本海新聞　2020年（令和2年）12月27日　日曜日　1版（東部版）　020ページ

音楽と演劇 共演堪能

倉吉と鳥取でライブエール

オーケストラをバックに演劇が繰り広げられた舞台＝26日、倉吉未来中心大ホール

新型コロナ禍でも、鳥取から芸術活動にエールを―。音楽と演劇を融合させた舞台「TOTTORI LIVE YELL Project（トットリ・ライブエール・プロジェクト）」（実行委員会など主催）の公演が26日、倉吉、鳥取両市であり、多くの観客が会場や映像配信でクラシックやジャズと演劇の舞台共演を堪能した。

このうち倉吉未来中心であった公演は、約400人が来場。第1部では「鳥取で生まれたクラシック」をテーマに、プロジェクトに賛同した県出身や在住の演奏家らが中心となって結成した総勢54人の「鳥たちのオーケストラ」が新倉健さん、上萬雅洋さん、井谷優太さんが作ったオリジナル曲を奏で観客を魅了した。

第2部は、「フィガロの結婚」「ドン・ジョバンニ」などモーツアルト作のオペラ楽曲を、鳥の劇場の役者や声楽家、同オーケストラが作品解説風に演出。芝居と歌、演奏のコラボレーションをダイナミックに展開し、会場からは大きな拍手が送られた。

とりぎん文化会館であった鳥取公演は、ジャズと芝居の共演。また倉吉、鳥取の両会場にはライブビューイングも設けられ、互いの舞台映像を流した。

（池田悠平）

©新日本海新聞社 無断複製・転載を禁じます。

■ 同記事は、2020年12月29日付の毎日新聞にも掲載

日本海新聞　2021年（令和3年）1月22日　金曜日　1版（東部版）008ページ

文化芸術の発展へ
座談会―公演を振り返る

【座談会出席者】

法橋　誠氏　（TOTTORI LIVE YELL project実行委員会委員長）
新倉　健氏　（鳥取大学名誉教授・作曲家）
菊池ひみこ氏（ジャズピアニスト、鳥取ＪＡＺＺ実行委員会委員長）
原　礼子氏　（山陰少年少女合唱団リトルフェニックス指導者）
【コーディネーター】中島諒人氏（鳥の劇場代表理事）

ミュージシャンと役者が同じステージに立ち、ジャズの魅力を伝えた鳥取公演（昨年12月）

公演を振り返る代表者ら

コロナ禍でも文化芸術にエールを送ろうと、「TOTTORI LIVE YELL project」が昨年12月に米子、倉吉、鳥取3市で行われた。音楽と演劇を融合させた舞台は、多くの観客を魅了した。各会場の代表者らが公演を振り返り、鳥取県の文化芸術の発展のために必要な若手育成について意見を交わした。

◇◇◇

【朝日新聞 2020年 12月18日　予告記事】

朝日新聞　2020年(令和2年)12月18日(金)

音楽

◆TOTTORI LIVE YELL　26日16時、倉吉市駄経寺町の倉吉未来中心と19時、鳥取市尚徳町のとりぎん文化会館。倉吉会場ではクラシック、鳥取会場ではジャズをテーマに、芝居に生演奏を取り入れた作品を上演。入場無料だが、各会場へ事前申し込みが必要。20日開催の米子会場は定員に達したため締め切り。事務局（鳥の劇場内、0857・84・3268）。

【読売新聞 2020年 12月23日　予告記事】

2020年(令和2年)12月23日(水曜日)　読売新聞

音楽×演劇 26日ライブ

音楽と演劇などの芸術を組み合わせた舞台「TOTTORI LIVE YELL project」（文化庁など主催）が26日、鳥取、倉吉両市で開かれる。

会場は「とりぎん文化会館」（鳥取市尚徳町、午後7時開演）と「倉吉未来中心」（倉吉市駄経寺町、午後4時開演）。

このうち倉吉会場は「演劇×クラシック」がテーマ。脳性まひで体が不自由ながらシンセサイザーで演奏活動をする井谷優太さんらが出演。演劇に合わせたオーケストラなどの演奏がある。

観覧無料だが予約がいる。舞台の情報を紹介する特設サイトから予約できる。問い合わせは事務局の鳥の劇場（0857・84・3268）へ。

ライブの様子は「ユーチューブ」で同時配信する。

【毎日新聞 2020年 12月29日　当日の様子 倉吉公演】

毎日新聞　2020年(令和2年)12月29日(火)

芸術活動にエール

オーケストラをバックに演劇が繰り広げられた舞台＝倉吉未来中心大ホールで

倉吉・鳥取 音楽×演劇 ダイナミックに映像配信も

新型コロナ禍でも、鳥取から芸術活動にエールを――。音楽と演劇を融合させた舞台「TOTTORI LIVE YELL Project（トットリライブエールプロジェクト）」（実行委員会など主催）の公演が26日、倉吉、鳥取両市であり、多くの観客が会場や映像配信でクラシックやジャズと演劇の舞台共演を堪能した。

このうち倉吉未来中心であった公演は、約400人が来場。第1部では「鳥取で生まれたクラシック」をテーマに、プロジェクトに賛同した県出身や在住の演奏家らが中心となって結成した総勢54人の「鳥たちのオーケストラ」が新倉健さん、上萬雅洋さん、井谷優太さんが作ったオリジナル曲を奏でた。

第2部は「フィガロの結婚」「ドン・ジョバンニ」などモーツアルト作のオペラ楽曲を、鳥の劇場の役者や声楽家、同オーケストラが作品解説風に演出。芝居と歌、演奏のコラボレーションをダイナミックに展開し、会場からは大きな拍手が送られた。

とりぎん文化会館であった鳥取公演は、ジャズと芝居の共演。また倉吉、鳥取の両会場にはライブビューイングも設けられ、互いの舞台映像を流した。

【読売新聞 2021年 1月9日　倉吉公演・サウンドクリエイター記事】

2021年(令和3年)1月9日(土曜日)　読売新聞

ウィズとっとり with TOTTORI

コロナ禍を生きる 8

サウンドクリエイター 井谷優太さん

リモート制作に自信

電子音や透き通った女声コーラスに、オーケストラの迫力ある音色が重なる。曲のタイトルは「エーテル」。宇宙空間で光を伝えていると仮定される物質だ。作曲したサウンドクリエイターの井谷優太さん(35)が車いすから手元のシンセサイザーで曲調を変えると、幻想的な音楽が客席を伝わり、会場を包み込んだ。

昨年12月26日に倉吉市で開かれた音楽イベント「TOTTORI LIVE YELL project」。客席からの拍手に、井谷さんは笑顔で応えた。イベントは、動画投稿サイト「ユーチューブ」で配信もされた。父・憲人さん(62)は「こういう世の中でも、自分にできることを見つけて活躍している。とても誇らしい」と目を細めた。

生まれる時、産道の中で酸欠状態になった影響で、手足の運動機能の一部に障害が残る。車いすで生活し、指や手の甲でパソコンのマウスやシンセサイザーを操作して、ソフトの内蔵音源を組み合わせて作曲している。「自分でどうしてもやりたいことは、体の動くところを見つけて、何とか工夫してやっている」と話す。

作曲するようになったのは、作業所に通いながら、一人暮らしを始めた10年ほど前。子どもの頃から好きな教科は図工だったが、仕事内容はクリエイティブなものではなく、新しい出会いもなく、鬱屈とした日々だった。「音楽を作りたいな」。変化を求めて、電子楽器メーカー・コルグが開発したシンセサイザーを購入した。鍵盤ではなく、タッチパネルを触ると音が出る機器で、手を動かすだけで音楽を作ることができた。「これはいける」――。

共通の友人を介して、パソコンで作曲をしている琴浦町出身の中原勇一さん(51)と出会い、意気投合。2014年に「DJ Yuta&Yuichi」を結成した。15年には2人で障害を持つミュージシャンらによる国際コンテスト「ゴールドコンサート」に初めて出場し、グランプリを獲得。これが音楽を続ける大きな自信となり、韓国で演奏する機会も得た。

音楽制作は、もっぱらリモートで行ってきた。パソコンで作った曲はメールで送る。「エーテル」もデータを共演者に送信して、オーケストラの楽譜に起こしてもらった。

だから、新型コロナウイルスの感染拡大のあおりでリモートワークの波が押し寄せても、何ら動じなかった。むしろ、活躍の場が広がった。

昨年9月には、インターネットを通じて知り合った米国の女性シンガーとリモートでやりとりしながら作曲。天文学習施設「さじアストロパーク」(鳥取市)のプラネタリウムのテーマ曲に採用された。11月には、自宅からテレビ電話を使用して横浜市で開かれているライブに出演。首都圏などでの収録にリモートで出演することも多くなった。

直接対面することが減った一方で、障害に気づかない人が増えてきた。「障害を抱えて活動する」という枕詞なしに、一人のサウンドクリエイターとして見てもらえるようになってきた。「これは痛快、結構」。自分の作品を純粋に評価されることが、何よりうれしい。

リモートワークの経験は他の人よりも長い自負がある。自分のフィールドに周囲が歩み寄ってきているようにも思う。「障害があっても社会とつながれることを、コロナの世の中で改めて感じている。いろいろ教える機会も増えるんじゃないかな」。自宅からつながる世界は広がるばかりだ。

(河合修平)

上シンセサイザーの演奏をする井谷さん。昨年12月にはオーケストラと共演した下「リモートを活用して、これからも世界に音楽を届けたい」と話す井谷さん(倉吉市で)

いたに・ゆうた　1985年、北栄町生まれ。県立皆生養護学校高等部卒。これまでに作曲したのは、ラジオのジングルなどを含めて100曲以上あり、鳥取市などで活動する障害者らによる劇団「じゆう劇場」の劇中曲も手がける。音楽面ではYMOの影響を受けているという。

TVCM・ラジオCM・新聞広告

【TV CM】

【ラジオCM】「LIVE YELLまもなく編」20秒

～ 鳥取の芸術家にエールを送ろう。トットリライブエールプロジェクト。

米子･倉吉･鳥取の３会場で、鳥取を代表する芸術家による、音楽と演劇の競演。

今こそ、「見る」というエールを。　詳しくはホームページをご覧ください。～

【新聞広告】

音楽×演劇で、鳥取をもっと元気に。もっと笑顔に。 入場無料 要予約

TOTTORI LIVE YELL project

今年は新型コロナウイルスによって多くのライブ芸術の発表、鑑賞の場が失われてしまいました。本プロジェクトでは感染症対策を徹底しながら、鳥取県西部、中部、東部で鳥取のアーティストたちが主体となり、「合唱」、「クラシック」、「JAZZ」と「演劇」によるコラボレーション作品を上演します。会場に足を運べないという方のためにインターネットのライブ配信も行います。このライブがお客様へのエールとなり、多くのお客様の観劇がライブ芸術へのエールとなることを願っております。

好評受付中!

米子 合唱×演劇
山陰少年少女合唱団リトルヴェニックス×鳥の劇場
12.20(日) 開演14:00
米子市公会堂

倉吉 クラシック×演劇
オーケストラ・オペラ×鳥の劇場
12.26(土) 開演16:00
倉吉未来中心 大ホール

鳥取 JAZZ×演劇
鳥取JAZZ×鳥の劇場
12.26(土) 開演19:00
とりぎん文化会館 梨花ホール

同時開催 ※3会場で展示を行います。 大好きなトットリの「未来」を切り撮ろう! 新発見! 再発見!! 「鳥取フォトキャラバン」

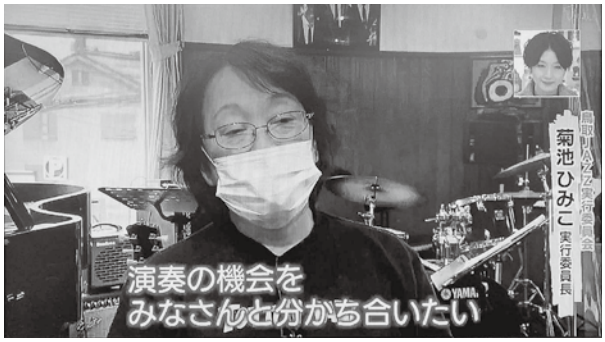
特設ホームページ×ライブ配信 公演の最新情報・チケット予約はコチラ https://tottori-liveyell.jp

[お問合せ] TOTTORI LIVE YELL project 実行委員会 事務局
〒689-0405 鳥取県鳥取市鹿野町鹿野1812-1(鳥の劇場内) TEL.0857-84-3268
主催／文化庁 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 TOTTORI LIVE YELL project 実行委員会
※新型コロナウイルス感染拡大状況により、無観客・ライブ配信のみとなる可能性もございます。

テレビ番組での紹介

日本海テレビ　ニュースevery日本海
2020年10月15日

ＮＣＮ（日本海ケーブルネットワーク）まちネタ
2020年12月８日



日本海テレビ　金曜スパイス！！
2020年12月11日

日本海テレビ　ニュースevery日本海
2020年12月17日

ＮＨＫふるさと伝言板
2020年12月18日

ＮＣＮ（日本海ケーブルネットワーク）まちネタ
2020年12月18日

中海テレビ放送　コムコムスタジオ中海テレビニュース
2020年12月19日

日本海テレビ　土曜スパイス！！
2020年12月19日

ＮＣＮ（日本海ケーブルネットワーク）
日本海新聞ニュース　米子公演の様子
2020年12月22日

公演の放送日程

■ＮＣＮ（日本海ケーブルネットワーク）

米子公演　１月６日12:00／24:30
倉吉公演　１月５日12:00／24:30、１月７日24:30、１月８日12:00
鳥取公演　１月４日12:00／24:30、１月７日12:00、１月８日24:30

■中海テレビ放送

米子公演　12月31日５:00 ～深夜３:00リピート放送
倉吉公演　１月16日５:00 ～深夜３:00リピート放送
鳥取公演　１月17日５:00 ～深夜３:00リピート放送
（パブリックアクセスチャンネル）
米子公演　２月３日（水）～５日（金）３日間 ５:00 ～深夜３:00リピート放送

日本海新聞 2020年（令和２年）12月18日 掲載　全面広告

（第3種郵便物認可）　〈全面広告〉　日本海新聞　2020年（令和2年）12月18日 金曜日　（18）

TOTTORI LIVE YELL project

コロナ禍により失われた文化芸術体験の機会を取り戻し、人々の創造、参加、鑑賞を後押しするため、全国規模で開催される JAPAN LIVE YELL project。
鳥取では12月20日に米子市、12月26日に倉吉市・鳥取市で、合唱・クラシック・JAZZと演劇によるジャンルを超えたコラボレーション公演を開催します。

12/20(日)米子、12/26(土)倉吉・鳥取開催

入場無料・要予約

音楽×演劇で、鳥取をもっと元気に。もっと笑顔に。

倉吉 クラシック×演劇

●日時／12.26(土) 開演 16:00(開場 15:00)
●会場／倉吉未来中心 大ホール

【第1部】「鳥取で生まれたクラシック」

鳥取県在住の作曲家、新倉健、上萬雅洋、井谷優太による鳥取生まれのクラシック楽曲をお届けします。演奏するのは、鳥取のクラシック奏者を中心に集めたこの演奏会のためのスペシャルオーケストラです。

・新倉健「SONGOQA」2020（ソンゴカグ）
・上萬雅洋「大山／神仏の狂宴」
・井谷優太「Synth Concerto Noi-Ether」

【第2部】「モーツァルト、四大オペラと人生」
～歌と芝居、管弦楽で綴るオーケストラ・オペラライブ～

モーツァルトは、12歳から晩年までオペラを創作し、赤裸々な「人間の姿」を微底して描き、その心迫を深く掘り下げ、愛や夢をうたいました。また、文明批判のメッセージや人間社会のあるべき姿を、未来の私達に託しました。演劇によるナビゲートで、代表作のハイライトを特別編成のオーケストラも交えた生演奏によりお届けします。

倉吉公演開催にあたり

鳥取在住・出身の優れた演奏家を中心とした55名の名手たちが倉吉未来中心に集結します。第一部は鳥取の三人の作曲家がこのスペシャルオーケストラのために書き下ろした作品を、第二部は鳥取の声楽家と島の劇場、管弦楽のコラボで「モーツァルト、四大オペラと人生」をお送りします。鳥取発のクラシックをお楽しみください。

鳥取大学名誉教授、作曲家　新倉 健

米子 合唱×演劇

●日時／12.20(土) 開演 14:00(開場 13:00)
●会場／米子市公会堂

チケット申込受付終了

【第1部】山陰少年少女合唱団 リトルフェニックス 第15回定期演奏会

【第1ステージ】1年の歩み
子どもの「さくら」・島になる
ハイサイ・シーサー・翼をください
【第2ステージ】うたのなかま
・マイ バラード・星影のエール
・きみ歌えよ・前へ
【第3ステージ】ディズニーの世界
・Zip-A-Dee-Doo-Dah
・Heigh-Ho（白雪姫）
・Bibbidi-Bobbidi-Boo（シンデレラ）
・When you wish upon A Star（ピノキオ）他

【第2部】「岡野貞一物語 ふるさとのかなた」
～終わらない戦争、作曲家の祈り～

唱歌「ふるさと」で有名な岡野貞一。鳥取でのキリスト教との出会いをきっかけに、音楽の道を進みます。東京音楽学校助教授の時、小学唱歌編纂委員となり、多くの唱歌を作り、やがて教授となりました。明治から昭和の激動の中、音楽家・教育者として勤勉に働き、教会聖歌隊の指揮を43年間務めた彼の人生に、合唱と演劇を通して迫ります。

米子公演開催にあたり

「うさぎおいしかの山～」多くの鳥取出民が口ずさむことのできる「ふるさと」。この曲を作曲された鳥取出身の岡野貞一さんの人生を知られざる作品を、演劇と合唱で紹介します。また前半は、例年開催している定期演奏会として、我が団の代名詞でもある歌って踊るステージ等を含めた、多彩なプログラムを披露します。子供達の活発な姿を是非お楽しみください。

山陰少年少女合唱団リトルフェニックス代表　原 礼子

チケットをお持ちでない方はライブ配信でお楽しみください。
12.20(日) 14:00から配信開始

同時開催　大好きなトットリの「未来」を切り撮ろう！ 新発見！ 再発見!!

「鳥取フォトキャラバン」

小中高校生や地域の方々が身近な自然を舞台にデジタル一眼レフカメラで写真を撮影し、トットリの魅力を伝えていくプロジェクト「鳥取フォトキャラバン」の作品をそれぞれの会場で展示します。日本の原風景に溶れるトットリの魅力を子どもたちは"新発見"し、大人たちは"再発見"する世代と地域、文化と歴史をつなぐ「地域交流型」の取組みです。

鳥取フォトキャラバン　代表 水本俊也（写真家）

特別協力：キヤノン株式会社

鳥取 JAZZ×演劇

●日時／12.26(土) 開演 19:00(開場 18:00)
●会場／とりぎん文化会館 梨花ホール

鳥取公演開催にあたり

日本のジャズ黎明期に大きな役割を果たした、日南町に縁のあるジミー・アラキ氏の生涯を紹介すると共に、日本に最初に入って来たジャズから、現在のジャズまでを、実際にジミー・アラキ氏と接点があり、渡辺貞夫や秋吉敏子等と共に「幻のモカンボセッション」に参加されていたサックスの五十嵐明要氏をゲストに迎えおおくりいたします。どうぞお楽しみに。

鳥取JAZZ実行委員会委員長　菊池 ひみこ

鳥取ゆかりのジャズアーティスト、ジミー・アラキは、進駐軍の語学兵として来日、彼が作った戦後の熱いジャズ・ムーブメントを核に、日本で独特の発展を遂げたその魅力を、生演奏と楽しいミ居でお届けします。日本ジャズ史におけるお宝な夜、66年前の伝説のモカンボセッションを知る五十嵐明要氏を特別ゲストに迎えます。

「スウィンギン・ジャパン」
～日系二世ジミー・アラキの生涯と日本ジャズ秘話をめぐって～

特設ホームページ × ライブ配信

公演の最新情報や、当日ライブ配信視聴・ライブビューイングの情報はホームページをご覧ください。

最新情報・ライブ配信視聴はコチラ　https://tottori-liveyell.jp

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、席間を開かして開催いたしますが、より多くの方に鑑賞していただくため、当日無料でのライブ配信を行います。
また、県内の文化施設や集会施設などでのライブビューイングを行う予定です。

チケット予約のご案内

米子公演のチケット申込受付は終了しました。

鑑賞にはチケットが必要となります。チケットのご予約は鳥取県文化振興財団インターネット・チケットサービスをご利用ください。新型コロナウイルス感染症予防対策のため、なるべく、インターネット・チケットサービスのご利用をお願いいたします。

鳥取県文化振興財団
インターネット・チケットサービスはコチラ
http://cms.sanin.jp/p/torikenmin/21/

●インターネット予約チケット受取窓口
□とりぎん文化会館　□倉吉未来中心　□アルテプラザ

※当日、チケット表面におお者、連絡先、当日お座りになった席番号の記入をしていただきお口での回収にご協力お願いします。
※当日券は、販売に空きがあった場合のみ、開演60分前から配布します。
※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、感染警戒地域等からのご来場をお断りする場合、または公演そのものが中止になる場合がございますのであらかじめご了承くださいますようお願い申し上げます。

公演をより多くの方に楽しんでいただくために

- **字幕あります**
  耳が聞こえづらい方でも公演を楽しんでいただくために、当日字幕をご用意いたします。
- **音声ガイドをおこないます**
  目が見えづらい方でも公演を楽しんでいただくために、FM電波を使用した音声による上演内容のガイドをおこないます。
- **手話通訳**
  耳が聞こえづらい方でも公演を楽しんでいただくために手話スタッフによる同時通訳をおこないます。
- **親子でお楽しみいただけます**
  小さなお子様とも気兼ねなく楽しんでいただくため、親子観覧席をご用意いたします。（倉吉・鳥取公演のみとなります）
- **LIVE配信をおこないます**
  新型コロナウイルス感染拡大防止のため、席間を開かして開催いたしますが、より多くの方に鑑賞していただくため、無料でのライブ配信を行います。

新型コロナウイルス感染症予防対策について

TOTTORI LIVE YELL projectでは、観客や出演者の皆さまと運営スタッフの健康と安全の確保を最優先とし、衛生管理対策を講じた上で開催します。

●主な感染対策
□観客や参加者同士が十分な距離を取れる広さの場所、定員でプログラムを実施します。
□会場の定期的な換気、消毒を行います。
□各所に消毒用アルコールを準備しております。
□プレゼントや差し入れはお控えください。
□屋外から参加するスタッフ・キャストは、PCR検査を受診し陰性を確認後、来演し、来場後の体調管理を徹底します。

●イベントに参加される方へのお願い
- 入場時の検温にご協力ください
- とっとり新型コロナ対策安心登録システムの登録
- マスクの着用
- 新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）の利用

［ お問合せ ］TOTTORI LIVE YELL project 実行委員会 事務局　〒689-0405 鳥取県鳥取市鹿野町鹿野1812-1（島の劇場内）　TEL.0857-84-3268

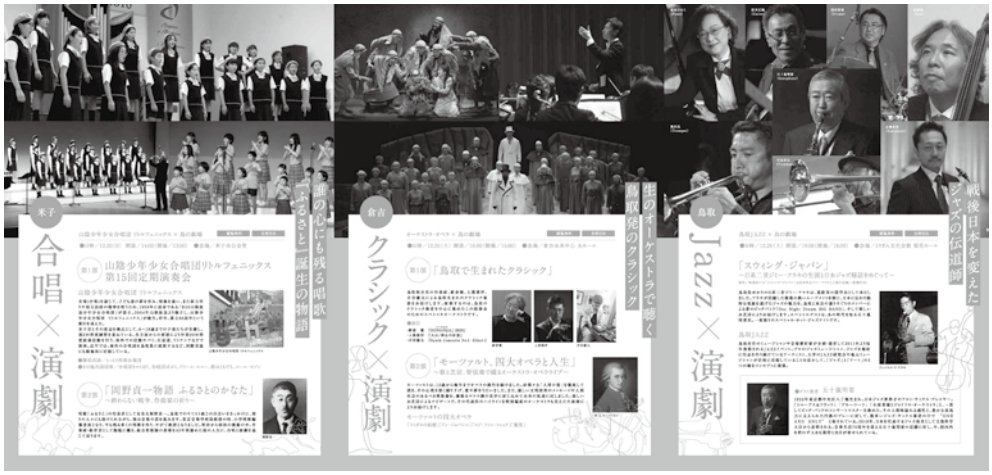
主　催／文化庁　公益社団法人日本芸能実演家団体協議会　TOTTORI LIVE YELL project 実行委員会
実行委員会／特定非営利活動法人 島の劇場、公益財団法人 鳥取県文化振興財団、新倉 健、鳥取JAZZ、山陰少年少女合唱団リトルフェニックス、一般財団法人米子市文化財団、日本海テレビジョン放送株式会社、株式会社新日本海新聞社、日本海ケーブルネットワーク株式会社、株式会社FM鳥取、株式会社エムアンドエムドットコー、鳥取県地域づくり推進部文化政策課

文化庁　GEIDANKYO　JAPAN LIVE YELL project

「三つ折り配布チラシ」

【表面】

【裏面】



「新聞折り込みチラシ」

【表面】

【裏面】

TOTTORI LIVE YELL project

報告書

令和３年２月発行

鳥の劇場運営委員会
〒689-0405　鳥取県鳥取市鹿野町鹿野1812-1
TEL 0857-84-3612
FAX 0857-84-3612